

資源調査の拡充を

飲食店98% 危機感抱く

持続可能な海と食を目指した啓発活動を行う一般社団法人Chefs for the Blueは2日、水産資源回復に向けた提言書を小泉進次郎農林水産大臣と森健水産庁長官に手渡した。事前に行ったアンケート調査で、1301人(1267店舗)から有効回答を得て、98%が仕入れに危機感を抱いていることが判明。資源調査予算の大幅拡充を核とした要望を行った。

料理人団体 政府に提言

農水相が対応方針

アンケートは5月15、29日の15日間実施し、1267店舗から有効回答を得た。業態別では、料理、フランス料理、イタリア料理など、10年前と比較した仕入れ事情について、流通量が「とても減った」「減った」と回答した店舗は合計95%に上った。価格は99%が「高くなった」と回答し、うち66%が「とても高くなった」とした。



小泉農水相(中央)に提言書を手渡す一般社団法人Chefs for the Blueのメンバー



小泉農水相は、佐々木ひろこ代表理事からアンケート結果の概要説明を受け「漁業の現

全国版

た。すし店「日本橋蛸殻町すぎた」の杉田孝明氏は「実際に料理に使える食材がないのが現実。海の実情を知ることのために予算を割いていただきたい」と調査予算の必要性を強調した。

日本料理店「てのしま」の林亮平氏は「瀬戸内のイダコ、アサリ、シヤコは子供の頃たくさん食べていたが近年は見かけなくなった。次の世代につなぐために資源調査に注力していただきたい」と技術継承への懸念を語った。

イタリア料理店「チェンチ」の坂本健氏は「われわれの世代で資源を全部使い果たしてしまえば、後輩たちに残せないかもしれない状況が目に見えている」と未来世代への責任を語る。

中国料理店「茶禅華」の川田智也氏は「約20年前に料理修業を始めてから、どんどん状況は悪化している」と長期的な悪化傾向を証言した。

フランス料理店「カンテランス」の岸田周三氏

提言書提出の翌日3日、杉田氏は豊洲市場で8日開催の啓発イベント

提言書提出の翌日に同団体メンバーのシェフ(右)と協力する仲間、漁業会社(後ろ)と情報交換する杉田氏(左)

は「フランス料理は、多様な水産物を駆使できる料理体系。日本で店を経営する最大の強みは、高品質の魚種を活用できること。それが海外の同業者との差別化要素であり、日本でフランス料理を提供する意義そのものだった。しかし、ほしい商材が手に入らない現在は、日本の飲食業界の国際競争力の根幹が揺らいでいる」と指摘した。

提言は①海洋環境変化による水産資源への影響をリアルタイムで調査・分析するための予算拡充と水産庁、国立水産研究所、教育機関の体制強化

②マサバ、ゴマサバを始めとするTAC(魚種の科学的根拠に基づく管理推進と小型成魚保護)③地域経済と日本の食文化に

とって重要な沿岸魚種の資源管理強化④天然水産物の国内流通確保と養殖水産物の計画的輸出に関する戦略的方針策定⑤持続可能な水産物購入の判断材料となる情報発信体制強化とトレーサビリティ推進の5項目。

「THE BLUE FISH ST」で使用する大西洋クロマグロの仕入れを行った際、購入先の仲卸、漁業会社、同団体シェフメンバーに「提言書を出してから反響が大きい」など、手心えを語った。

4者間でマグロの品質、漁業、政府への提言など多角的な情報交換も行った。

集魚灯をインテリアに

函館・高級ホテルが先行導入

集魚灯製造販売の富士電球工業(東京都、天野昭次郎社長)はインテリア業界向けの照明に参入した。漁船で使用されている船上灯のフォルムをそのままに、店舗や家庭で使用できるLED電球を製品化した。函館の高級ホテルが先行導入して、館内のさまざまな場所に採用するなど、幸先の良いスタートを切っている。不漁により、主力業界への提案に厳しさが続く中、新基軸を打ち出して活路を見出していく。

富士電球工業

「Fishman」シリーズとして、「Classic」「Pro」「Quartz」の3種類を開発した。集魚灯で使用する材料をそのまま使用し、本物の完全再現を売とする。

「Classic」は直径180mmの1キサイズで、口金はE26に対応。(口金サイズ26mm)。LEDフィラメントの採用で、やさしい光がリラックスできる時間と空間を提供する。

「Pro」は直径230mmの2キサイズ、260mmの3キタイプあり、口金はE39に対応。特に直径290mmのランプは遠くから見てもインパクトは絶大。漁業者も驚くくらい、本物の完全再現している。

「Quartz」は直径110mmで口金はE39に対応。外球には耐熱耐久性があるクォーツガラスを使用し、剛性感のあるスタイリッシュなデザインで、より高級感のあるランプに仕上げた。

漁業者の集魚灯では、以前は直径180mmのものを使用していたが、現在は直径230mm以上が一般的となり、使用されなくなった。それを今回はインテリア向けに復活させ、スリムさを引き出した。口金E26は一般的な家庭や店舗で使用されている規格のため、より導入しやすい設計も特長となっている。

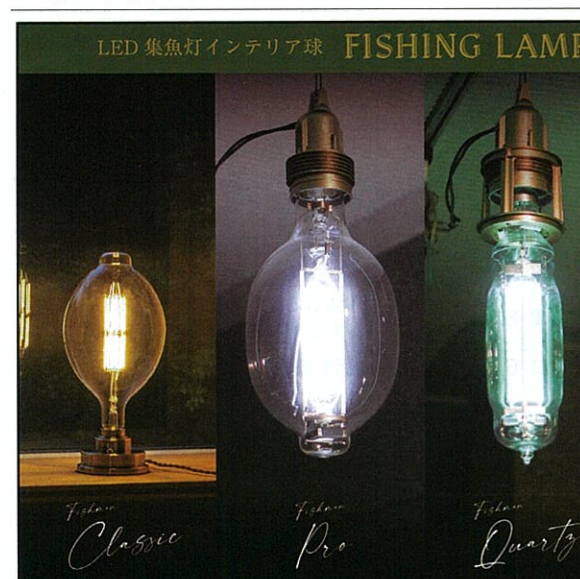
開発の発端は2年前。当時材料に余裕のあった製造部門がインテリアでも使えるようなサイズ感で試作してみたのが始まり。その後、インテリア業界に精通するデザイナーが「これまでにない

函館の高級ホテルが先行導入し、館内のロビーや廊下、レストランなどさまざまな場所で活用されている。海辺の街のホテルのインテリアとして採用された第一歩は、同社にとっても強い自信となっている。

現在、主力業界のイカ釣船は不漁に苦しみ、設備の更新もなかなか進まず、同社にとっても苦戦を強いられている。「本業の集魚灯を飛躍させて業界に貢献していくことはもちろん、新基軸も軌道に乗せることで会社の成長につなげたい」としている。



部屋に置いた「Classic」目をひく大きなランプの中にはLEDフィラメントがやさしく光ってリラックスさせる



船上の本物の灯がお店やお部屋でも漁船で使用されている船上灯がフォルムはそのままに「Fishman シリーズ」として一般家庭電源用のLED電球になりました



富士電球工業株式会社

〒161-0034 東京都新宿区上落合3-8-25 FLAMP 2階
TEL 03-3362-9421 URL www.fujilamp.jp